第２回登別市総合計画第３期基本計画市民検討委員会 都市調和部会 議事録

◆ **開催日時**　平成２６年6月１８日（水）　１８：３０ ～ ２０：００
◆ **開催場所**　登別市役所　第１委員会室
◆ **出席部会員**　部会長　長部　正之
副部会長　西尾　拓也
部会員　荒川　昌伸
谷﨑　博美
中川　信市
宮崎　修（市庁内検討委員会　副部会長）
【都市計画・公園グループ総括主幹】
星川　彰（市庁内検討委員会　部会員）
【建築住宅グループ総括主幹】
◆ **欠席部会員**　部会員　林田　康光
◆ **事務局**　上野　雄司【総務部企画調整グループ企画主幹】
打田　知之【総務部企画調整グループ主査】
◆ **議題**　当市の都市景観に関する部会員の思いについて（第２回）

（部会長）
前回は、出席者の皆さんのまちづくりに対する思いですとか、考えを自由にお話しいただきましたが、今日は、第１回の部会を欠席された部会員が参加していますので、それぞれにこれからどういったことを話し合えばよいのかというご意見などについて、お話しいただくところから始めたいと思います。

（部会員）
人口減少の問題と関係しますが、まちづくりもそれぞれの地区でも一生懸命やっているが、固定された人しかまちづくり活動に参加していない現状があります。
また、市民が１か所に集まれる場所といいますか、まちのつくりというものが無いですね。
例えば、伊達市では、体育館やプールがあり、道の駅が隣接しているほかイベントで活用できる場所などが整備されていますが、登別に照らし合わせると、そういった場所が無いように感じます。

（部会員）
人口減ですとか少子高齢化ですとかさまざまな課題がありますが、これらの条件と、登別の地形を考えると、今までのように各地区をそれぞれに良くしようとすることは難しい

と思いますので、思い切った考え方の転換が必要などだと思います。
　テーマパーク、漁港や緑など、既存の財産を生かしながらまちづくりを進めていかなければならないと思います。

（部会長）
　というようなご意見がありましたが、前回の部会から日が経ちましたので、前回出席の部会員からも何かご意見等はありませんか。

（部会員）
　私も他のまちを見て感じることがあるが、人が集まる場所には人を集める魅力があって、その結果、少なからずお金がまちに落とされる。
　また、人が集まることで、これまでにできなかったことができるようになる。
　人が集まるおかげで、まちが活性化していくという好循環があるのでしょうが、登別にはそういった場所があるのかなということを考えてしまいます。

（部会員）
　前回（第１回）部会でお話しした、マップをお持ちしました。
　自然をベースにした資源は結構ありますよね。
　例えば、この場所に行けば風景がとても良いですとかそういったものを、このマップに詰め込みました。
　しかし、本当に景観の良いところでも民有地のため掲載できないところもあります。
　最近、日本でもフットパスが流行を見せはじめています。
※フットパス：森林や田園地帯、古い街並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くことができる小道のこと
　隠れたフットパスの名所としては、室蘭の絵鞆半島が道内では有名ですが、地元の方にはあまり知られていません。
　私たちがマップを作製した時にも、フットパスに適した道はたくさんあったのですが、民有地なので、掲載できないものがあったのです。
　整備するわけではなく、既存の財産の中でもよいものがあります。

（事務局）
　部会員から提供のあったマップを眺めながら、それぞれの地区のイメージや良いところ、不便なところなどの課題を見いだせるのではないでしょうか。

（部会長）
　事務局から提案がありましたが、マップを眺めてみて感じたことなどはございませんか。

（部会長）
事務局の了解を得て、学生たちに登別の基本構想について話をしてみたのですが、登別市に学び舎を持ち登別市に暮らす学生たちが、この基本構想や基本計画に関する知識を持ちち合わせていなかったんです。
こういったことを踏まえて、市内の小学校や中学校で、クイズ形式などでまちの姿などについて知ってもらえるような手法などもあると思います。

（部会長）
この部会は都市調和部会ですので、このマップを見ながらインフラの整備ですとか課題ですとかそういったご意見はございませんか。

（部会員）
部会長の話にもありましたが、子どもたちが市に興味を持ってもらわないと、このまちについてみんなで考えてもらえないのかなと思います。
私も４０年近く登別に住んでいますが、部会員のマップを見ると、私も行ったことがない場所などもありますので、クイズでも何でもよいですから、登別に興味を持ってもらえるような仕組みは必要なのではないかと思いますね。
そういった点では、マップの更新もよいのではないかと思いますね。

（部会員）
既存の施設の中で、変えていかなければならないものと、生かしていくものもあると思います。
海岸線に形成されているまちの中で、それぞれの地区の特性を生かしていかなければならないと思うんですよ。
富浦地区では、昔は漁港のところは海水浴場で、小さなころはよく遊んだものです。
今では、漁港に船は着いていませんので、青少年育成の観点で海水浴場を整備して、子どもの憩いの場としてはどうかと思いますね。
それぞれの地区が持ち合わせた特徴があると思うんですよ、それを市民がどのように思っているのかということが大切だと思いますので、それぞれに所属している組織などもあるでしょうから、そこに投げ掛けてみることも必要ではないでしょうか。

（部会員）
登別のまちの地域特性といいますか、それぞれのまちに住んでいる方々の考え方も異なるのだと思います。
鷲別地区の方は、生活機能の半分が室蘭にあるような感じもしますし、登別のまちを一つになって何かを考えましょうと言っても、ある地区では賛成、ある地区では反対という

ことでまとまりきらないような気がします。

（部会員）
　伊達市は、駅前をガラッと整備して街並みを変えてしまいましたよね。
　伊達市も登別と同じように行政エリアが横に長いのですが、伊達の市街地にさまざまなお店があって、まちづくりを歴史的なつくりにし、カルチャーセンターを設置して人を集めています。
　バラバラにしてしまうと、ものは作られないですから、登別も市民が集まってくる憩いの場を集中してつくる。
　アッチの地区にもコッチの地区にも整備ということはいけないんですよ。
　ですから、商店で買い物をするのであればこの地区、まちの中で飲食するのであればこの地区、さまざまなイベントをするのであればこの地区などの特徴を持たせないと、目に見えたまちづくりにはならないと思うんですよ。

（部会員）
　伊達市は、強力なリーダーシップなので、人が集うところには集中してお金を使うと聞きます。

（部会員）
　ですから、黄金ですとか長和といった街並みは変わっていないんですけれども、その街に暮らす方々に生活の不便がないように整備をしています。
　その代わり、伊達の駅前の方に市民が集まる整備をしている。
　栗山町なども同じような雰囲気を持っています。
　登別も、どこかに重点を置いてまちを整備する必要があると思うんですね。
　たとえば、登別駅から登別温泉に向かう街を整備するとか、絞り込まないといけないと思うんですね。

（部会員）
　登別から登別温泉に向けての桜並木の沿道ですが、インターロッキングブロックの手入れが大変なんですよね。

（部会員）
　何事にもメリハリをつけることが必要だと思うんですよ。
　市民はそれぞれにアイデアを出し合って、それを行政が形にしていく。

（部会員）
テーマパークなどの核となる施設はあるのですけれども、そこに行っただけで終わってしまい、人とが循環する仕組みにはなっていないのではないでしょうか。
亀田記念公園なども、すてきな公園ですが、なかなか市民の方が立ち寄らないですし、市外の方も呼び込めていないですよね。

（部会員）
今ある資源をどう生かすのかということだと思います。

（部会長）
交通手段の問題があると思うんですよね。
登別は行政エリアが広いですので、例えば、亀田記念公園でお酒を楽しんで帰ろうと考えてもなかなか難しいですね。
中登別の桜も車を止めて眺めるということにはなりにくいですね。
どちらかといえば通過して、きれいだったなと感じる程度になってしまいます。

（部会員）
中登別であれば、桜の時期だけでも露店が立ち並ぶなど賑わいがあればよいのですが。
資源の使い方だと思うのですが。

（事務局）
皆さんはこれまで、さまざまなまちづくりのイベントなどを手掛けてこられたと思いますが、イベント行う空間や、そこを結ぶインフラなどについて感じるところなどはありませんか。

（部会員）
車を駐車できる場所が少なかったりしますよね。
白老の牛肉祭りでは、広大な敷地を駐車スペースにして、シャトルバスを運行する方法をとっていますが、登別ではなかなかそうはいかないですね。
屋外会場に併設した体育館などがあって、雨天の時にそこを活用できるとかそういったものがあるとよいですね。
川上公園などでは、せっかくステージを設けていますが、なかなか活用されていない状況にもありますし、遊具などをもっと充実させて、駐車場が充実されるとよいと思うのですが。

（事務局）
　たとえば、川上公園でイベントを行うにしても、鷲別地区や登別地区にお住まいの方がどういった方法で会場まで行こうとされるのかですとか、私は幸いに近所に住んでいますので歩いて行けるのですが、こういった状況を踏まえて施設を結ぶ線として何が必要かということを考えることなども必要かと思います。
　また、商業が集積されている地域があって、その地域に向かうための動線となる道路がどうあるべきか、こういったことも今後、体系図を考える中で必要になってくると思いますので、皆さんもそういった視点を持たれてご意見をいただければと思います。

（部会員）
　福岡では、１００円バスが走っていて、どこでバスを降りても１００円なんです。
　そのバスが循環しているんです。

（事務局）
　それは、どのような方でも乗れるんですか。

（部会員）
　すべての方が乗れます。

（部会長）
　長崎でも、２００円で乗れますよね。

（部会員）
　何かのイベントでもやってみるといいですね。

（部会員）
　イベントが無くても、家族を連れて行ってあまりお金を掛けずに一日を過ごせる場所などがあるといいですよね。
　やはり駐車場や周辺整備も重要になってきますね。

（部会員）
　札内台地で行われていた「大地の祭典」は、今、開催すると流行るんでしょうね。
　今、マラソンなどがブームですから、とてもいいのではないでしょうか。

（部会長）
　クロスカントリーに参加して、終わってから焼肉、バスで温泉まで連れて行くなどの方法で行うと、時代ニーズに合いますよね。

（部会員）
　ジムに行くと、マラソンの本があって、日本全国のマラソン大会が掲載されているんです。
　それも、早く申し込まないと締め切られてしまうんですよね。

（部会長）
　結構、商品などで参加者を多く集めるものなどもあるようです。

（事務局）
　マラソンといえば、こいのぼりマラソンが、今年初めて市街地を走ったのですが、それについて、皆さんどう思われますか。

（部会員）
　もっと、大きくして伊達市のマラソンのような規模になる良いですね。

（事務局）
　北海道で最初にやるハーフマラソンですね。

（部会員）
　伊達ハーフマラソンも洞爺湖マラソンも、すぐに定員を超える申し込みがあります。
　登別も「倶多楽湖マラソン」と銘打って、やってみるのもいいのではないですか。
　参加者は温泉に泊まってもらって。

（部会員）
　人を呼ぶには登別もいい材料を持っていると思うんですけれども。

（部会長）
　ということで、材料については各部会員から提案されているのですが、それをうまく使えていないというところに焦点を当てて、登別が今後整備すべきインフラをどのように効果的に配置すればよいのかですとか提案したらよいのかということについて、少し考えるような方向ではいかがでしょうか。

（市庁内検討部会部会員）
　登別市近隣の住民が、登別市に来たくなるような場所というのは温泉以外には無いのかなと、マップには魅力がたくさんあるのですけれども。
　伊達市には行きますよね。
　ある程度おしゃれなロケーションのところもありますし、それが登別には少ないということは悔しいとは思いますね。

（部会員）
　札幌市などに買い物に行くのと、伊達市に買い物に行くのとは違うんですよね。
　伊達市に行くと、お蕎麦屋さんやちょっとしたレストランがある、お菓子屋さんもあるということで行くと思うんですよね。
　買い物に行くのであれば、苫小牧市ですとかそちらの方へ向かうと思うのですが。
　マリンパークや時代村、漁港、温泉、海岸など生かすことのできる材料がたくさんありますよね。
　それらの材料を繋ぎ合わせる、例えば１００円バスの運行も含めて。

（市庁内検討部会部会員）
　むかし、コミュニティーバスを試験的に運行したことがありますよね。
　柏木町などの方面に循環バスを運行したと思いますが。

（部会員）
　室蘭でも、２月に１回買い物バスを運行していたと思いますが。

（市庁内検討部会部会員）
　人口減少と高齢化ということになりますと、今以上にバスというものを考え直さなければならないと思うんですよね。

（部会員）
　まずは、どこへでも車で行くといった発想を切り離さないといけないのかもしれません。
　歩くことも健康につながることも考えて、目的地に向かうまでの間もただ歩くだけではなく、そこまでの区間に何らかの仕掛けをしてあげると、車が目的地のそばまで行けなくともその間も楽しむことができると思うんですよね。

（部会員）
　先日、鎌倉に行ったときでも結構歩くことが多かったですね。

（部会長）
東京などでも結構歩くことになりますよね。

（部会員）
北海道の人は比較的歩かないのではないでしょうかね。

（部会員）
かえって健康面では歩く方がいいですよね。

（部会員）
ネイチャーセンターでは、年間で２万５千人くらいの方がいらしているのですが、アウトドアですとか自然活動などを楽しんでいかれるのですが、スローフードですとかスローライフを体験したい方が全国から集まっているんですよね。
ある大学でもなぜ、ここに人が集まるのかを研究しているくらいです。
いろいろ考えるのですが、核家族化が進んでしまい、人が田舎から都会に人が行ってしまっています。
登別も２０４０年で人口が、３万６千人と１万５千人くらい人が減っていく中で、この現状をどう捉えるべきか考えなければなりません。
交流人口も大事ですが、ここに住んでいる人たちが、ここに住み続けたいと思わせるにはどうしたらよいのか考えなければならないと思うんですよ。

（部会長）
叔父と叔母が小学校の教員をしていて、退職後、稚内に住んでいたのですが、教員時代に白老の温泉付住宅というものを購入していたんですね。
退職後のスローライフを楽しむために購入していた住宅ですが、実際に住もうと思ったときには、病院が無いなどの問題があったそうです。
ですので、病院ですとか人たちを支えるような仕組みがないと、踏み込んできにくいのかなと感じるところもありますし、あるいは、買い物難民などの問題もありますが、将来、本当に動けなくなったときに、どのくらいのサポート体制が整っているのかですとか、そういった面からもスローライフができるのかと感じるところもありますので、そういう部分の充実を図ることが実際には必要なのではないかと感じます。
私も買い物をインターネットですることもありますので、買い物をするために外へ出て、歩き、景色を楽しむということに実感がわかないですね。
私は旭川の出身ですが、旭川は盆地で形成されていますので、必然的に中心部に人が集まって、にぎわいを創出するのですが、登別で当てはめてみますと、例えば鷲別でお祭りがあればその方面の人、温泉でイベントがあってもその方面の人しか参加しないというの

が現状で、なかなか人ごみを見ることが無いんですよね。
　そういった人混みを生み出すために、集約して力を入れることが大切なのではないかと思うんです。
　また、先程、他の地域から来たくなるところが少ないという話がありましたが、若者に魅力のある施設や設備の整備も必要なのではないかと感じています。

（部会員）
　私の子供が、たまに帰ってきても行くところが無いというんですね。

（部会員）
　やはり、若い人たちにとって刺激のあるところというのが、ほとんどないんですよね。

（部会員）
　刺激のあるところを求めるのであれば、札幌まで行けばあるのだからよいのですが、静かに暮らすところという点では、これくらいの方がよいのではないでしょうか。
　でも、家族でふっと行きたいところはあってもよいのではないでしょうか。

（事務局）
　ちょっと逆の目線での話をさせていただくのですが、今、若者向けのまちの話をされていたと思うのですが、実際に人口が減少することが確実な中で、市内の高齢化率も当然高まっていくわけです。
　こうした中で、このまちが日常生活を充足させられるだけのインフラが備えられているのかですとか、インフラを結ぶ動線ですとか考える必要があります。
　今、住んでいる場所からインフラまで、どういった動線で結び付けていくのかということも、１０年間の計画と考える時には必要なのではないでしょうか。
　当然、まちの魅力が高まれば、老若男女問わずに人が集まる環境が整うとは思いますが、そこまでに結び付ける動線がどうなっているのか、また、その手段はどういったものを使われているのか、といったところも考える必要がありますね。

（部会員）
　現役時代は車で買い物などの用事を満たせるので、住んでいるところに不自由は感じないのですが、年齢が進むと車の運転も困難になるんですね。
　そうなってくると配達サービスですとか、そういったものが無いといけないですよね。
　年齢を重ねると、どんどん行動範囲が狭まっていくんですよ。

（事務局）
　こういった問題がエリアごとに顕著になってきています。
　高齢化率が高いエリアというのも出てきていますので、そのエリアをどうしていくのかということも課題になってきますよね。

（事務局）
　この部会では、まち全体の在り方というものを、景観ですとか交通ですとかインフラなどの視点から検討していますし、また、他の部会では、商工業や農林水産業などの施策について検討されていますので、そういった議論の中で、商業の振興の側面から買い物支援の考え方も出てくるのではかと思います。

（部会員）
　高齢化といっても、ある時期を迎えた時には逆に減っていくでしょう。
　そういったことも踏まえて考える必要がありますね。
　ざっくばらんなトークをする中で、いくつかの柱が見えてくるのでしょう。

（部会長）
　さまざまな意見が出たところで、話し合いを煮詰めていくための良い材料が集まってきたのではないでしょうか。

（事務局）
　みなさまも、自由に話し合いをしていく中で、将来の登別のまちの姿というものが見えてきたのではないかと思いますが、今後は、体系図を見ながらさらに議論を深めていきたいと考えていますが、いかがでしょうか。

（副部会長）
　体系図の議論を進めながら、その箇所ごとに議論を深めていくのもよいのではないでしょうか。

（部会長）
　次回は、体系図に沿って、進めることにします。
　次回の開催は、７月２日（水）とします。お疲れ様でした。